

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900055	事業の開始年月日	平成19年7月1日
		指定年月日	平成19年7月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜小机		
所在地	(〒222-0036) 神奈川県横浜市港北区小机町2170		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和2年12月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の事業所の目標として、介助方法を統一して、みんなでスキルアップして同じレベルの介助をしていきたいと考えています。月に一度研修を行い、介助方法や基本的なオムツのつけ方などを、全職員で共有していく予定です。

2か月に1回行っている虐待防止委員会の研修では、スタッフにストレスがあるときや、介助中イライラしたときの対応の仕方などを、勉強しています。

昨年度より、健康増進活動として地域交流に力を入れてきましたが、今年はコロナウイルス禍にて、地域の方を呼べないので、利用者スタッフのみで、指導者を得て月一度「あんしんヨガ教室」「NŌAエクササイズ」「リズム体操」で身体を動かしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年11月19日	評価機関 評価決定日	令和2年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇理念に基づき利用者の自立支援 ・法人の理念「お客様に寄り添い自分らしい暮らしをサポートする」に沿い、利用者の自立を支援している。職員は、排泄や入浴の際、利用者を注意深く見守り、できないことを介助している。 ・家族との連絡には、事業所の電話でサポートし、携帯電話を持っている方には、家族や友人と自由に連絡を取り合ってもらっている。 ◇法人本社や神奈川本部とのサポート体制の確立 ・法人本社では、感染症対策、誤薬防止、接遇マナー、看取りの社内研修を実施している。また、「内部監査委員会」は、身体拘束と虐待につき職員にアンケートを行い、現場の実態の把握に努めている。事故発生時には、事故報告書をメールで提出するまで、神奈川本部が中心に対応し、本社や本部とのサポート体制が確立している。 【事業所が工夫している点】 ◇毎月のミニ水害訓練の実施 ・事業所は水害が想定される地域にあり、毎月避難訓練を第2火曜に行っている。利用者全員が玄関先に移動し、本部の車での避難を想定している。 ◇食の楽しみの支援 ・2か月に1回、おはぎやたこ焼きなど、利用者が好みのおやつを作っている。年2回の食事レクは、利用者が好きなものを選択している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	みんなの家・横浜小机
ユニット名	1 F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に会社の理念とホームの理念を斉唱することによって繰り返し理念の意味を確認し実践に繋げている。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の理念と事業所の理念を各階の入口と事務室に掲示し、職員は毎日申し送りで斉唱している。 ・法人理念「お客様に寄り添い自分らしい暮らしをサポート」のもと、職員は、利用者の自立を支え見守るよう努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の情報を得ている。オレンジカフェや体操教室などに近隣の方々が参加されて交流をしているが、今はコロナウイルス禍にて開催できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前は、事業所のオレンジカフェや体操教室に、地域から毎回約10名の参加者があり、ボランティアの来訪もあり、また、地域の夏祭りに参加する利用者もいた。 ・事業所の避難訓練には、地域から数名の方が参加している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつもは運営推進会議や行事に参加された時にホームの生活の様子や利用者との会話を通して認知症の理解を得ることができているが、コロナウイルス禍にて今は中止している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で地域包括支援センター職員や町会長始め、地域住民の代表者が参加して話し合いをして、意見や情報頂いているが、今はコロナウイルス禍にて中止している。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、2か月ごとに、町内会長、地域包括支援センター職員、家族代表が参加して開催している。コロナ禍以後は、活動状況報告書を参加メンバーに配布している。町内会長からは、台風時の河川情報や地域活動交流会への出席要望がある。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者とは利用者が受診の時に医療関係者との連絡をお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月地域包括支援センターからセミナーの案内が届き、参加することもある。 ・職員は、横浜市の講演会に年に数回参加している。 ・事故報告は、本部から区担当課宛、メールにて行っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回身体拘束廃止委員会を開いて研修を行い理解を深めている。毎日の申し送り時に身体拘束が必要な要件と身体拘束による3つの弊害を読み上げて理解を深めている。	・2か月ごとに身体拘束廃止委員会を開き、職員が実際に拘束を経験したり、テストを受けたりして理解を深めている。 ・利用者への対応に関して、職員同士で互いに声を掛け合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回虐待防止委員会を開催し、会社からのテーマで研修会を行っている。テーマがないときは各フロアの問題を拾い上げ、解決に向けて職員で話し合っている。又申し送り時に「虐待ゼロへの行動指針」を読み、常に虐待への意識を持ち続けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方があるので一応理解はしている。研修の機会があれば勉強したいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する説明を管理者が行っている。入居後の流れから退居に関する説明も行い、疑問や質問などは、ホーム長又は本社の担当者が対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を開催し、家族の意見や要望を伺っているが、今はコロナウイルス禍の為開催できずアンケートを出して運営に反映させるようにしている。	・重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、意見を受け付けている。家族からは、運営推進会議や家族会で意見を聴いている。 ・介護計画の作成・更新の際には、家族の意見を聴き、その意向を取り入れている。	・家族アンケートの実施により、家族の意見・要望を事業所運営に反映させることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で本部で開催されている事業所会議での内容は職員に伝えるべき事柄は周知徹底するようにしている。全体会議や各フロア会議で意見交換をし良い提案は運営に反映させるようにしている。	・毎月の全体会議やフロア会議で職員の意見や要望を聴き、運営に反映している。管理者は職員と面談を年2回行い意見を聴いている。 ・職員からの要望で、加湿器を大きなものに買い換え、部屋干し用の突っ張り棒を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無駄な残業廃止など実践するよう努めている。定期的に人事評価を行い職員の努力や勤務年数や提案して結果を出したものについて表彰する制度もあり、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修は順番に受講するようシフト調整をしています。初任者研修やケアマネ試験事前研修、実務研修など各自にあった研修に受講できるようシフト調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市高齢者グループホーム連絡会に加入して、連絡会や研修に参加している。小机地域のグループホームとの連絡会にも参加して情報共有を図っているが、今はコロナウイルス禍の為参加できていない。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行いご家族と本人と直接話しをして、ご意見を伺いプランにも反映させ安心して死活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族が困っている事、不安な気持ちに寄り添い聞き取りを行い問題点をケアプランに上げるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1か月は実調や資料により暫定プランで支援し、その後問題点を見極め必要に応じてリハビリなどサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点から出来ることは自分でやって頂く。お手伝いをしたり会話を楽しむことで仲良く生活を共有できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月様子を「一言通信」を家族に郵送したり、電話や来設時に伝え、定期的にホームのブログを更新している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会を続けていけるようホームから連絡を取るようになっている。行事に参加していただけるようにしているが、今年はコロナウイルス禍の影響で行事は行っていません。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は家族との連絡に、事業所の電話を使用している。本人の携帯電話を使う利用者もいる。 ・コロナ禍以前は、友人と美容室に出かける利用者もいた。 ・毎月の「一言通信」で利用者と事業所の様子を家族に報告している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えをして皆様と交流できるようにしています。トラブルがないように注意をしています。月に1回1階2階で合流で好きなこと（塗り絵やカラオケ）をできる時間を設けているがコロナウイルス禍のため、今は中々できていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に家族から相談や連絡があるときは、可能な限り対応してこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の気持ちや希望をくみ取り、月1回カンファレンスをして困った事はその都度検討をしている。日頃の生活から本音を言われることが多いので察知するように努めている。	・職員は、利用者との普段の会話から思いや意向を聴き取り、生活記録や個人連絡帳に記入して、毎月のカンファレンスで共有している。 ・困難な場合は、表情や仕草からくみ取ったり、家族に確認したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から情報を得て把握して、できるだけ好みに合った生活ができるよう支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録や健康管理表や申し送りなど1人1人の状態を共有し把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれ担当者がつき、定期的にカンファレンス、モニタリングを行い本人の状態を把握し、本人家族の意向を伺い、結果をケアプランに反映させている。	・アセスメント結果を基に本人と家族の意見も聴き、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。 ・計画は、6か月ごとのほか、介護保険変更時にも見直している。 ・3か月ごとのモニタリング結果を記録し、見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡帳に記入された情報を共有し実践やプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況の変化により医療機関と相談しリハビリやマッサージなどなサービスを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来ていただいておりますが、今はコロナウイルス禍のため実施していません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回ずつの内科、歯科の訪問診療と月4回の歯科衛生士の口腔ケアを受けています。月2回薬剤師から処方薬の説明と服薬指導を受けています。	・全利用者が、家族の同意を得て事業所の協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。本部の看護師が毎週訪問している。 ・専門医への通院は家族が同行し、その診察結果は、事業所が受け取り、共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携室の看護師が週1回健康管理に来て下さる。連絡ノートに情報を記載し共通の情報を交換している。緊急性の時は、看護師から医師に直接連絡相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後はお見舞いの時に病棟看護師から情報を得るようにしている。ご家族、病院と連絡を取り合い状態を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の対応を説明をしている。担当医師からご家族に説明がありホームでの対応をご家族に話し終末に向けてのケアプランを作成しスタッフ一同支援に取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に「重度化した場合の指針」に基づき、事業所でできることを説明している。 ・体調の変化に応じ、家族、医師と入院や看取りの相談をし、看取りの場合は介護計画を作成し、支援に取り組んでいる。職員は本部の看取り研修に参加している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はマニュアルに沿って皆が同じ対応を出来るようにしている。玄関にAEDを置き、年に1回消防署員により心肺蘇生法、AEDの使い方の訓練があり身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度夜間火災の避難訓練を消防署員から指導を受けています。月に1回ミニ水害訓練を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回（1回は夜間想定）消防署の指導を得、避難訓練やAED訓練を行っている。また、水害避難訓練も毎月行い、玄関前に集合して本部の車での避難を想定している。町会と消防署の間で消防応援協力覚書を交わしており、地域の協力も得ている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の申し送り時に「やってはいけない行動・言動」「やらなければならない行動・言動」を読み上げて互いに確認をしあっている。毎月行っている虐待防止委員会で接遇の大切さを話し合っている。	・「やってはいけない行動」（早く食べて、立ち上がらない等）「やらなければならない行動」（悩まない、支え合うなど）を申し送り時に確認し合い指針としている。 ・職員は接遇について会議で話し合い、本部の研修に参加している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の行動の中から思いや気持ちを理解し、信頼関係を築き気持ちを引き出すよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースを大切に職員の都合を優先にならない様心掛けている。1人1人の生活のペースや「個性を理解してできるだけ希望に沿った生活を送れるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服や汚れた物を身につけない様に、本人に選んで頂いている。1日に何回も着替える方もいらっしゃる。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後の挨拶は当番制で行い、メニューをフロアに掲げ、食事の内容を伝えている。食器拭きも出来る方をお願いをしている。 利用者に希望を聞いたり、季節のおやつ作りを行い、楽しさも提供している。	・利用者は、食事前後に思い思いに挨拶して、食器拭きなどできることをしている。 ・おやつ作り、お弁当の会など好みを活かす機会を設けている。利用者は、おはぎやたこやきを作ったり、来所の職人さんの握り鮓をその場でいただいて楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各人にあった食事形態を提供して、摂取量をわかるようにチェック表で管理して過不足にならないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から口腔ケアを週1回受けている。毎食後歯磨きの声掛けをして見守り、仕上げ介助し、出来ない方には介助してきちんと磨いていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で管理して、排泄パターンや便秘の状態を把握して誘導している。	・排泄チェック表にて排泄パターンを把握して、自立に向け支援している。現状、おむつ利用者、布パンツ使用者のほか、大半はリハビリパンツを使用しており、入所後改善した例もある。失敗した場合は自立の気持ちを損なわないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘日数を記録し医師から下剤や便を柔らかくする薬を処方をして頂き、運動不足や水分不足に注意し、廊下を歩行したり、牛乳を摂取して自然の排泄を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思や体調を確認して週2～3回気持ちよく入浴できるよう支援している、出来るところは自分で洗身洗髪して頂き自立心を失わないようにしている。	・入浴は週2、3回、10時から15時くらいまで、利用者の希望に応じ支援している。 ・寛いで入浴が楽しめるよう、入浴剤や柚子湯、菖蒲湯も提供している。 ・できることはしてもらい、自立を損なわないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせて、午前午後の休息を設けている。昼夜逆転ならないように配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回薬剤師から服薬指導を受けている。管理表を作り、薬の目的、副作用をスタッフ間で共有をしている。誤薬をしない、マニュアルの基本を守り、薬セット、服薬する時はダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いや塗り絵、歌、計算ドリル等個々に支援をしたりレクリエーションに取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調管理を考え、近隣の散歩に行くようにしている。外泊や遠出には家族にお願いしているが、今はコロナウイルス禍の為自粛している。	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日は希望に応じ、2~3人が近隣を散歩している。玄関の外での外気浴もしている。 ・以前は正月の外泊、家族との旅行もあったが今は自粛している。 ・去年は地域活動交流会やお祭りに利用者が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺は畑が広がり道路は整備され、通行も少なく散歩に適した環境にあることから、本人・家族の希望を活かし、さらに散歩の機会が増えることが、期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの生活の中でお金を自分で使うことがないが、希望があれば支援をしている。普段の買い物は代行で職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の掛けたい方や家族からのかかってきた電話に取り次ぐよう支援をしている。家族や親戚から手紙や葉書が届くことがあり、喜ばれるが返事を書くことはなさない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの室温と湿度、換気に注意し、テレビの音量調整や照明の明るさを調整して居心地の良い空間づくりを行っている。 壁には季節の飾りや写真を貼って楽しめれるよう空間をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間には、温・湿度計、加湿器を設置し、快適に過ごせるよう管理している。入居者の選んだDVDの曲が静かに流れている。 ・季節感、生活感を表すコスモスや紅葉のはり絵、楽しかったお弁当の会の写真などが飾られている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたり、1人でいるのが苦手な方はフロアでおしゃべりしたりテレビを見たりして時間を過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の居室には昔の写真や家族の写真を飾り、忘れないようにしている。家族が持参した懐かしい物やテレビなどをタンスの上に置いて居心地よい環境を作るように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、家族の写真やぬいぐるみ等好みの物を飾り、仏壇、テレビも置き、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。 ・事業所はベッド、タンス、洗面台、エアコン、防災カーテン、スタッフコールなどを設置している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置があり、居室の横に表札を掲げ自分の部屋をわかるようにしている。トイレや浴室の表示をし安全に自立出来るような環境作りを配慮している。		

事業所名	みんなの家・横浜小机
ユニット名	2 F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送りで会社の理念とホームの理念を斉唱し、理念の意味を認識して実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域の情報を得るようにしています。施設では体操を開催して地域の方に参加して頂き交流していますが、今年はコロナ禍で交流が少なかったです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナウイルス禍の為外部からの面会が中止になっているので出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に会議を開き、地域包括支援センター職員や民生委員、地域住民の代表者やご家族で話し合いをし、色々な情報や意見を頂いているが今はコロナウイルス禍の為かいぎが出来なく報告を郵送して、意見を手紙で頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者の訪問（面接）や受診時の相談、連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開き研修を行い、理解を深めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回虐待防止委員会を開いて研修を行ない皆で意見を言い合い理解を深めている。又申し送りの時に虐待ゼロへの行動指針を読み上げて意味を理解しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されてる方がいらっしゃり、実践で学ぶ機会が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は管理者が行い、十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議と家族会を開催し、家族の意見や要望を伺い、運営に反映させるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議とフロア会議を行って意見を交換している。会議で話されたことは共通の情報として全員に認識させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い職員の努力や勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を設け、誰でも参加できるようにしている。外部の研修も回覧でまわし、学びやすい環境を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市高齢者グループホーム連絡会に入会して、連絡会や研修に参加している。小机地域のグループホームとも情報共有を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行いご本人やご家族に意向を伺いニーズをもとにスタッフと信頼関係を繋げるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接でご家族の話の中で聞き取り、問題点を見つけ一緒に考えプランに繋げる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1ヶ月は入居前の面接や資料により暫定プランで支援し、その後は入居されてからの問題点を見極め、必要に応じてサービス利用を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることをご自分で行って頂いている。食器拭きや洗濯物畳み等手伝っていただく事によりご本人の自立支援に繋げている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「一言通信」をご家族に送りホームでの様子を伝えている。ホームのブログでも情報を掲載し定期的に更新している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人などの面会を推奨している。ご家族との外出、外泊を支援したり、電話や手紙の取次ぎを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの1階と2階の利用者の交流を月1回行っている。席替えを時々行いトラベルにならない様にし、利用者同士の交流をサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に相談や連絡があればその都度丁寧に対応をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活を見極め、傾聴とうによりご意向を把握している。月1度のカンファレンスをし困った事はその都度検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接でご家族や本人から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・排泄、水分量のチェック表・健康管理表等で誰でもすぐ利用者様の状態を把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行って見直しをしている。居室担当者やその他スタッフとは月1回のカンファレンスの他申し送時に話し合っている。ご意見をご本人や家族に伺いプランを考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りなどに記入し情報を共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズにあったサービスを検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来ていただきお話しやゲーム等で楽しまれています が今はコロナウイルス禍の為来ていただく事は出来ていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科と歯科の訪問診療を受けており24時間オンコール対応をできている。医療情報はスタッフ間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関室の看護師とは週1回健康管理を受けています。連絡ノートを通してスタッフと情報を交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時やお見舞いの時に看護師より情報を得たり、こちらから家族に連絡を取って情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族と話し合い方針を確認し、その時々で再確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署員から心肺蘇生法・AEDの使い方の訓練を受けて受けている。マニュアルをわかりやすい所に置きすぐ対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回夜間想定で避難訓練を行っています。 毎月1回水害に備えてミニ水害訓練を行い、物品や持ち物等の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月行っている虐待防止委員会で対応を確認したり、理解を深めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や会話やお互いの信頼関係中から気持ちを理解できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースで動けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時髪にブラシをかけるよう声掛けして身だしなみのご支援をしています。洋服はご自分で選ぶことを心掛けています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に好みを確認をしている。食事前後の挨拶やテーブル拭き食器拭き等手伝って頂いてます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェック表で管理している。食事形態や食事量を一人ひとり配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生から口腔ケアを週1回受けている。ご自分でケアできない方には、スタッフが介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表で管理して、時間をみてトイレ誘導してなるべくトイレで排泄ができるよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足や運動不足に気をつけそれでも難しい時は医師と相談し処方薬を頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご自分で出抑来ることはして頂き、週2～3回入浴されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中身体を動かす時間を多く待ち、昼寝の時間は長すぎないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より月2回服薬指導受けている。管理表を使いスタッフ間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	魔日のレクリエーションや家事、散歩等で役割や楽しみごとを支援している。毎月1回1階と2階と交流で楽しい時間を作っていますが今はコロナウイルス禍の為出来ません。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考え近隣の散歩に行くようにしている。ご家族との外出はその都度支援しているが、今はコロナウイルス禍の為外出は出来ません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は財布（小銭のみ）を持っています。ほとんどの方は自己管理できていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方や電話や手紙は取り次いでおり、携帯電話を持っていられる利用者様もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に季節の飾りや写真を貼っています。室温や換気に注意して加湿器や濡れタオル等で調節をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたい方は自由に過ごして頂いている。フロアで仲いい方とお話ししたりテレビを見たり歌を唄われて過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の思い出の品や写真などをタンスの上に置き気持ちよく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室のドアの表札等すぐわかるように絵文字等工夫してわかるようにしている。		

令和2年度

事業所名 グループホーム
みんなの家・横浜小机

作成日 令和2年12月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	新型コロナウイルス禍で面会や家族会も開催できない状況で家族との交流が今年は今までは全くできていない状況です。	家族の意見や要望を運営に反映させていく。	定期的に連絡をとり、意見や要望を伺い、その他にアンケートなど実施して、全体会議の時に皆で共有して運営に反映させていく。	1年間
2	49	歩行が不安定の方が増え安全の為、散歩は現在1対1で行っている為、1日に散歩に行ける人数が数人しか行けていない状態です。	天気の良い日は、たくさんの方に散歩や外気浴を実施する。	散歩を午前と午後に行くようにして回数を増やす。天気が良く暖かい日は、外でおやつを召し上がったたり、皆さんで外気浴が出来る時間を作る。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。